

医療ニーズを見逃さないケアを学ぶ

介護職員・地域ケア ガイドブック

— 介護職員スキルアップ研修テキストより —



東京都医師会 発行

**医療ニーズを見逃さないケアを学ぶ
「介護職員・地域ケアガイドブック」**

— 介護職員スキルアップ研修テキストより —



東京都医師会 会長
鈴木 聡男

高齢化の進展に伴い今後、東京都では65歳以上の人口は長期にわたり増加する傾向にあります。特に、75歳以上の人口は約2.8倍に増加と言われており、高齢者を含む世帯での高齢者のみの世帯の割合は52.4%になります。また、高齢者世帯での持家比率は約7割となり、残りの約3割は賃貸などの居宅・施設入所になります。居住環境においても医療・介護を考えるうえで重要な課題となっています。

病院・施設では、急性期と慢性期との連携において、急性期の入院治療から慢性期の施設入所、さらには退院調整や在宅医療への移行・整備が課題であり、その一方では施設や在宅医療に移行した患者さんが、急性期治療へ再度移行するケースの標準化が課題となっています。

来たるべく2025年には、推定で居住系施設では約68万人、在宅介護には約430万人の介護従事者が在宅医療のサービスには必要と考えられています。これは現在(2007年)に比して、約250万人の介護従事者が不足しており、さらに介護施設や医療施設を加えると約320万人の介護従事者が必要ということになります。これが介護職不足と言われている現状であり、さらなる介護職員の育成が必要と思われます。



医療・介護の将来設計には、人をケアする在宅療養の理解が必要であり、療養者の身体のカは勿論のこと、長期に及ぶ療養生活には心のケアも必然です。これには介護職員の皆様の経験と正しい知識が必要になります。

東京都医師会では、介護職員が医療に関する知識を学び、医療職等と適切な連携が出来るよう東京都から「介護職員スキルアップ研修事業」を受託し、介護職員研修カリキュラム及び研修テキストの作成に大きく寄与したところであります。本ガイドブックは2万部の発行を致しました。介護職員をはじめ、かかりつけ医や病院医師であるの東京都医師会会員、また、医療職の皆さまへ配布することにより、現場での介護職との連携ツールとして利用して頂ければ幸いです。また、医師が管理している介護施設等でも活用していただければ、多職種間で共通認識が生まれ医療・介護の連携を強くするものと信じております。ここに医療の必要性をお示しできることが、将来へ必要とされる医療介護の礎となることを大きく期待するところでもあります。

平成 23 年 3 月

はじめに

介護職員スキルアップ研修の 実施にあたって

介護保険制度は、平成 12 年 4 月に要介護高齢者を支える制度として開始し、今年で 11 年目を迎えました。以降、制度の浸透と高齢化により、介護保険制度の利用者数は急激に増加しています。しかし、利用者数の増加に伴った課題が生じる事は否めません。例えば、多職種間（介護職をはじめ医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護支援専門員等）での円滑な連携や、介護職に求められる“医療ニーズの気付き”などが挙げられます。

要介護者の中には、退院して間もない方や、持病を抱えている方など、日常的に医療を必要としている方が少なくありません。これは、在宅ケアでの医療ニーズの高まりとなり、介護・医療職不足の問題に拍車がかかる状況と言えましょう。そこで、要介護者の方々に日ごろから接している、介護職員の皆様が医療に関する理解を深め、医療の必要性に気付いて頂くこと、すなわち“医療ニーズの気付き”によって、円滑な多職種協働の介護を実現していただくことが重要となります。

しかしながら、「必要な人」に「必要な医療・介護」が求められているにも関わらず、現実には法的な医行為の壁があり、現場では、違法性の阻却の考えで対応がなされているとの声も聞こえております。本ガイドブックの冒頭では、介護を行う上で明確にしておかなければならない医行為について説明し、現行の法解釈を明確にしております。そして、現在でも国では在宅医療を支えるための、法整備が進められているところです。

また、在宅介護、施設介護を問わず現場の大きな課題として、東京都内のケアマネージャーの約 7 割以上が非医療職ゆえ、医療ニーズの高い要介護者に対する対応力が求められています。医療職にも、生活機能等をより

看ている介護職との情報共有や理解が求められているという課題があります。

これには、正しい知識の習得や、医学的共通言語の使用によって、多職種間の相互理解を深め、円滑な連携を図ることで、より安全で質の高い介護サービスを提供することが可能であると考えております。そこで、東京都医師会では東京都より「介護職員スキルアップ研修事業」を受託し、「介護職員スキルアップ研修カリキュラム検討委員会」を設置し、介護職の皆さまにご活用して頂きたく研修テキスト作成を致しました。

専門職が参加して作成した本ガイドブックは、研修の中で使用するにとどまらず、お手元に置いていただくことで、介護業務の中でも使用していただける内容になっております。お読み頂いた皆様に、是非とも本書をご活用いただき、介護における QOL 向上の一端を担って頂けることを心から願っております。

平成 23 年 3 月

介護職員スキルアップ研修
カリキュラム検討委員会委員長
高瀬 茂

目 次

発刊にあたって	2
はじめに	4

総 論

1. 医療的知識の必要性について	9
2. 高齢者の身体と疾病の特徴	35
3. 認知症について	73
4. 地域リハビリテーション	97

各 論

5. 薬について	119
6. 口腔ケアと摂食・嚥下障害	175
7. 状態の観察と緊急時の対応	217
8. 医療介入への気づき	237
9. 誤嚥性肺炎とその他感染症	251
10. 医療的な配慮が必要な利用者等に対するケア (痰の吸引の取扱い等)	299

● 巻末資料

要介護者の急変時の緊急対応と流れ	330
用語集「介護に役立つ用語」	334
「介護保険に関連する用語」	342

● 巻末別紙資料

要介護者の急変時対応チャート
要介護者の急変時の緊急対応と流れ